



新しい学校づくりに向けた 令和6年度の取組について

新しい学校づくり
かわら版 Vol.9
2024.7 発行

令和6年1月に策定した**牧之原市義務教育学校施設整備基本構想・基本計画**を基に、令和6年度に予定されている新しい学校づくりに向けた、主な取組についてお知らせします。

相良地域の取組

相良地域では、学校敷地となる土地の造成に向け、校地予定地及び周辺の測量や各種調査を行い、造成設計を進めていきます。

造成の主な考え方

- 敷地奥の山を削り面積を確保するとともに、土地に高低差があるため、削った土を低い部分へ入れ、一段の平らな面を確保します。
- 敷地の南東部に接続する進入路を新たに整備します。既存の南北の道路を徒歩及び自転車の通学路として、交通面や防犯面の安全性を考慮して整備を行います。



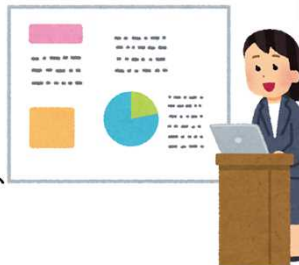
国道473号バイパス大沢IC北側周辺

榛原地域の取組

榛原地域では、学校施設の設計を行う業者の選定、校地周辺地域の治水対策の検討などを予定しています。

学校施設の設計

新しい学校の建築基本設計・実施設計、造成設計、付替え道路の設計、既存施設の解体設計を行う業者を全国から広く募集する**プロポーザル方式***により業者を選定します。設計過程では、子どもや保護者、教職員、地域の皆様のご意見を聞く機会も設けてまいります。



*業者の提案する企画などを総合的に審査し、最も適した業者を選定する方法です。

校地周辺地域の治水対策の検討

学校の整備と並行して、令和6年度・令和7年度の2年間で校地周辺地域の治水対策を検討します。

今年度は、浸水被害の軽減に向けて現地調査等を実施し、地域全体の内水解析や浸水要因の分析を行います。



榛原中学校及び周辺

新しい学校づくりを進めています

新しい学校づくりの取組を周知するため、6月17日に総合健康福祉センターさざんかで開催された「というマルシェ(ビズマルシェ)」に参加しました。小さな子ども連れや若者の来場が多く、職員から新しい学校について説明し、来場者にアンケートにご回答いただきました。

112名からのアンケート結果のうち、市内在住者の結果では、**新しい学校ができることを知っている人が91%**、新しい学校に望むこととしては**教育活動の充実、防災対策、子どもの居場所**の順で要望が高いことを確認することができました。

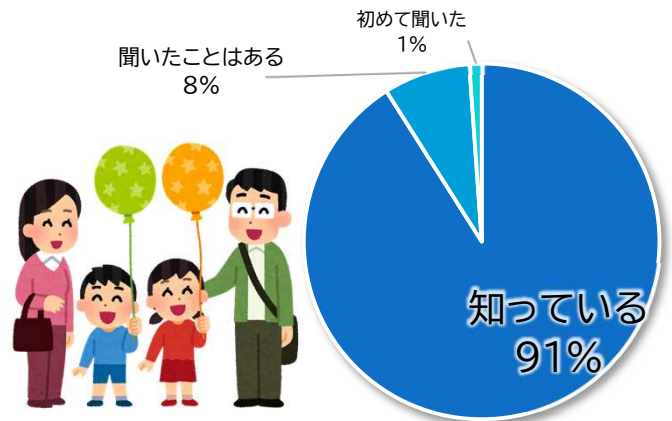
引き続き、イベント等での周知を行ってまいります。

ご協力ありがとうございました!

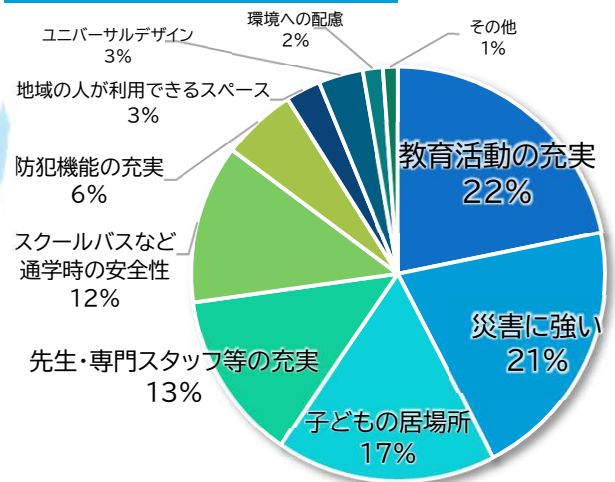


いただいたアンケートのうち市内在住者89名の回答結果です

新しい学校ができることを知っていますか？



新しい学校に望むことは何ですか？



新しい学校づくり豆知識 7

子どもたちの生命を守りぬく、安全・安心な教育環境とは？

『新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について』(文部科学省)の中で示されている「5つの姿の方向性」に対する本市の方針を順番に解説します。

文部科学省5つの姿の方向性4-1 安全・安心の確保

未来を担う子どもたちの生命を守るため、安全・安心な教育環境を確保することは、新しい時代の学びを実現するための大前提であり、既存施設を使用する場合は、老朽化対策等を着実に推進する必要があります。また、地域の避難所としても期待される役割は大きく、自家発電設備や情報通信設備、バリアフリー化、水害対策などの防災機能を一層強化するとともに、居住性等の確保に努める必要があります。



■牧之原市が新しくつくる義務教育学校の方針

- ▶ 大地震の後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られる安全性も確保します。
- ▶ 相良地域は、適切な地盤調査を実施し切土と盛土を組み合わせながら造成を行い、地盤の特性や強度に応じた適切な建築設計とすることで、学校の安全性を確保します。
- ▶ 榛原地域は、洪水時の浸水深を考慮し適切な造成高を設定しつつ、建物の基礎部をかさ上げするなど、必要な洪水対策を実施することで、学校の安全性を確保します。